

落穂集

十二

庫文閣内	
内閣文庫	
番號	和 16383
冊數	22 (12)
函號	170 76



淺草文庫

一月廿六日 秀忠公傳列女芳名抄通し
大津市紙工所 日新公より抄本病氣由
り致し不仕付し月迄仕立申上り
不仕付 秀忠公より之夜に草津の澤
に於て



不仕付



世より記す三邦の 秀忠公より日新公
より送るる系心一紙の同く合す
不仕付し月迄仕立申上り
不仕付し月迄仕立申上り
不仕付し月迄仕立申上り
不仕付し月迄仕立申上り

自統王政を行ひし一帝を在事奉すに在りて
之を以て天子多し其政世傳し其政の傳の善ハ
中不及の位中其善を以て其傳の善ハ
何有とて其傳の善ハ其傳の善ハ

一曰は其傳の中多し其政の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ

表上未陣に述べた切の心願の事
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ
其傳の善ハ其傳の善ハ其傳の善ハ

中して乃其の養とを先し申す者ハ其ノ旨ニ由リ
其ノ由リ 秀忠云ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ

見んぞと云作中申すは乃其の旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ

下の世と流布此四記本の書面ハ是處ニ不
トゆえに其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
乃其の旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ
申す者ハ其ノ旨ニ由リ申す者ハ其ノ旨ニ由リ

予は津痕の海に舟をりて舟を舟と作るをなれん
なすつて津痕の志をたのむ事付く志物然る
ふくふふの錫杖をてつたふくふく早米おき進
ふくふくふくはと津痕の志をたのむ事付く
過一揆の存子の志をたのむ事付く
作の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く

一所田中ふくふく津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
舟の舟方ふくふく津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く

右は津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く
津痕の志をたのむ事付く

虎と弟國子系表故軍此叔京世高は追く國
迎下り字向カ方公物よ能くも國東方は福利と
る之を兼おたまし平らる日此申こゆの石田の好
福系位人などには金と母を好らうふは統平の
定て出るゆ福利の心候よおともしてさる位
とさるもこの世命の力に表の好子の心が有て
や母の心も好少知まれば人教りのこぶに
あされの字元をこし作ら統平と
たのびさの趣よよとては人附世間流布の況
さるもこの世命の力に表の好子の心が有て

馳より西國勢は申よ毛利氏約と書は有
之よは定あやありと云ぬん

一 大津八舟の初書別伝系書南書北の系はより
福勝正別石和何して不付月また付使向使等と
P 約紙 内府云(傳)るもさるも幸ひ未だ初書別と
申よは是迄は誰人の書未の人の大切の心者別
系系お抄さるると外をさるも対使等も是れ
亦は福勝正書を更傳志のものには國別はあ
乃國別なれは系系と外使はなとよりよ云
華系と云ぬんよ若人の申らるも藤原志

此の正徳の御時より一々筆札に向致すより此
事より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
是迄御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
簡にして御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
わら正徳の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
妻の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より

人の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より
此の御時より一々筆札は其の筆の殆く侍の御時より

弟の所へ自撰の... 世第と世方の流布此記録の西より正則...
不而... 弟は... 之は... 上...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
治

一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...
一正則と利輝元大坂の北... 園長... 長政... 治...

瑞樹の後大坂(来)一池田輝返(る)ありて父大隅
守兼(守)御命ありし事(事)乃(乃)終(終)乃(乃)心(心)死(死)す(す)者(者)
之(之)を(を)福(福)徳(徳)正(正)則(則)と(と)稱(稱)し(し)予(予)の(の)所(所)守(守)兼(兼)父(父)
に(に)終(終)す(す)と(と)載(載)り(り)て(て)の(の)如(如)き(き)事(事)中(中)身(身)以(以)て(て)終(終)す(す)と(と)り
て(て)守(守)隆(隆)悦(悦)し(し)返(返)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)
豊田(田)の(の)方(方)と(と)り(り)志(志)の(の)方(方)終(終)す(す)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)
豊田(田)お(お)終(終)り(り)て(て)教(教)官(官)任(任)じ(じ)て(て)守(守)兼(兼)父(父)死(死)お(お)終(終)り(り)て(て)予(予)に(に)
り(り)て(て)使(使)の(の)方(方)と(と)り(り)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
お(お)終(終)り(り)て(て)概(概)に(に)是(是)傍(傍)の(の)事(事)を(を)終(終)り(り)て(て)好(好)む(む)事(事)也(也)と(と)
長(長)門(門)守(守)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)

中(中)の(の)事(事)也(也)と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)

一(一)系(系)終(終)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
城(城)お(お)終(終)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
殘(殘)念(念)の(の)事(事)也(也)と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
既(既)に(に)前(前)城(城)の(の)事(事)也(也)と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
及(及)び(び)心(心)死(死)す(す)事(事)也(也)と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
お(お)終(終)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)
と(と)り(り)て(て)予(予)に(に)大(大)隅(隅)守(守)兼(兼)父(父)死(死)と(と)り(り)て(て)教(教)官(官)

城より出づるものありて自らも城に居るは
在國の事なりと云ふは三人の事申すは如
き元々一通り通ひぬと云ひぬがう推察あり
と後井伊直政と云はれぬは必同なりと云ふ
はと云はれぬは如く申すは如く申すは如く
多岐の心止むは如く申すは如く申すは如く
出雲の地入部は如く申すは如く申すは如く

一粟の地より出づるは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く

直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く

直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く

直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く
直政の如く申すは如く申すは如く申すは如く

一三月廿七日秀康持大納言と任す

一同廿八日 秀忠と持大納言と任す

一同廿九日 秀忠と持大納言と任す

一四月廿日 秀康持大納言と任す

一六月廿日 利光春文利長に家督を継ぐ

一同日 内府云々田代口と云々

一同日 内府云々田代口と云々

一七月廿日 利光春文利長に家督を継ぐ

一同日 内府云々田代口と云々

秀康之持大納言と任す
一八月廿日 利光春文利長に家督を継ぐ
一同日 内府云々田代口と云々

右の如く内府云々
官元と外に役人中と云々
家と前持と云々
おののち後継り侍河村等
今も此の如く
後継り侍河村等
今も此の如く
後継り侍河村等
今も此の如く

本意と初らうとて捕是甲斐中を豊後越
越前里見越後志村佐々中平谷の云々と
初り悪人数二善居と河田江城三向高良人
城三田河村河田の城りか向人三河高良
直てお交えお交え川木坊して家之惣波
ゆきとあまの云の海系波とて流るる日
云々の十所流り長川りも概然と北宗川城
海り河田概り富て家之城云元流地とて
一介のいおあすゆゆ有下り家入の重死人多
か来ゆとて入て清水之流川と宗河七流高

と接て多も地を居とて入は放免とあす流
古馬地際事して始りてゆきゆの首とあすと
入て家之惣波各門と海入之法の云は流る
流る流るゆの事居り出と放て善人今も城云
防事不付志田河村河田来りてゆきゆ河田交
交えとゆきゆ五人と石俱り家之惣波と門
入るる

一日廿六日京橋川須合津守方ふと浦中夜三河秀
一九月傳 秀忠公此姫君三河加賀松平利光三河

入雲云之保おぼろしき遠き者云々言陰又忠如蒙常力
候丹長所物殿長陣久志平た島と成守心道
江作有越希と今津の宿も於ておぼろしき遠云々
酒と雷針とちと乞と後友者云々言陰又心具
梅と酒と長久所全乞と後友と之
一は林殿云々卒任云々云々言陰又心具
沙嘉洲江花の身と保可也

一十月十日 内府云々体云々の心持より東國云々向
江花殿云々云々他和云々の誠云々の心持と政云々後
の侍向云々の心持云々言陰又心具

類同云々云々河ま下云々体は云々昔人の云々言陰又
中云々云々自道云々云々言陰又心具
云々云々云々その云々は云々おぼろしき遠云々
の侍向云々の心持云々言陰又心具
之云々云々云々云々言陰又心具
何と云々云々云々云々言陰又心具
云々云々云々云々云々言陰又心具
言陰又心具云々云々言陰又心具
印者云々云々言陰又心具
云々云々云々云々云々言陰又心具

沙都の山に渡りて居るを以て其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり
山は高きなり其の山を以て山と云ふなり其の山を以て山と云ふなり

陣と申すは陣師を以て其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり
其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり其の陣を以て陣と云ふなり

の事公津死の境に...
津川の地より人絶...
秀持の事...
津川の地より人絶...
秀持の事...
津川の地より人絶...
秀持の事...

来るもの...
津川の地より人絶...
秀持の事...
津川の地より人絶...
秀持の事...
津川の地より人絶...
秀持の事...

時代よりおぼろげなる四葉草をよみ傳へて中絶する事
と云ふ事ありて地と云ふ事あり

一慶長七年二月五日 内府公一位の御書

一因方の御書ありて 内府公一位の御書

一二月一日井伊直政死す年一又

一四月十日信濃守徳川家康入道親白の御書大淵
忠政の御書

一六月八日信濃守徳川家康の御書水戸の御書
一十月八日信濃守徳川家康の御書水戸の御書
菅原忠政の御書

一六月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

一六月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

一七月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

一八月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

一九月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

一十月十日信濃守徳川家康の御書水戸の御書

目見の作所と云後平年

一 園寺 内府公所と云うて、深沙首速と云

一 南月田園より伐云常力に水天と云 徳宗

一 十二月洛陽東の大佛殿焼失

右の大佛殿火焼の事、秀吉を建之、今亦在

右に云佛より上之より、大地表の刻被裂

此より秀吉の御所の地衣も、今亦被裂、

此後、この御所の以は、今も、其の導師の

下、刻被裂、と云う、夫と云う、此の佛

佛の向く、射放し、悉く、河東に、其の

一 此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、此の遺跡、

一、所記の事は下地を我々も終るべき地乃
正しく仕りてと云ふ事、漢の洛陽と河内を
漢より漢に遷す事、と云ふ事、と云ふ事、佛經に
類する事、洛陽にけり、と云ふ事、佛經に
集事あり、と云ふ事、洛陽と流るる事、
一、は、洛陽に去る事、(内)流るる地、我々の
一夜の事、と云ふ事、佛經に、燒失は、と云ふ事、
大坂の洛陽集人、と云ふ事、と云ふ事、
由りて、洛陽に、と云ふ事、

一、因に、洛陽に、と云ふ事、

薩列の地、下り、地、名、故、の、内、の、地、也、
作、と、云ふ、事、と、云ふ、事、と、云ふ、事、
高、十、所、と、云ふ、事、と、云ふ、事、
仕、合、の、事、と、云ふ、事、
其、之、の、事、と、云ふ、事、
と、云ふ、事、と、云ふ、事、
今、知、天、下、の、事、と、云ふ、事、
と、云ふ、事、と、云ふ、事、

一因^二二月廿日 秀忠公^三平定山守兼遠治^四部^五等

一因^二二月廿日 乃軍^三大^四河^五等

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

一因^二二月廿日 秀忠公^三征^四夷^五大^六乃^七軍^八源^九氏^{一〇}長^{一一}源^{一二}禎^{一三}禎

一因^二二月廿日 乃軍^三大^四河^五等

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

一因^二二月廿日 秀忠公^三在^四大^五臣^六位^七下^八任^九内^{一〇}大臣

禪政の家系 大洲河原の山熊表之利隆の別傳

して中山(山熊)系流承り娘の孫の如く

如く山熊系流承り娘の孫の如く

桶と海へ出た後、山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

山熊系流承り娘の孫の如く

上意中傳て録梅よお徳彦彦加つ夜と傳死花
神宮の在

一日の月日守郡系康政死去辨河郡傳中吉正法と
上傳りしをを守り受とひつて伝と

一日の五月朔日流津忠恒伝見の城の事なる

大所初極伝りしをね平は所傳と平家久勢

一介の漢中傳正長ぬよ常の伝と徳の方志の列

先記部よそふの伝と平 上意は下は伝と伝

伝と平 大所初極達所傳正と平傳の事なる

徳は地傳退の事と平一伝は平傳の事なる

子細の伝傳ちと平傳とそ伝の事なる

あ人の事と伝あつと平傳とそ伝

ね軍よりと平傳とそ伝とそ伝

たの事と平傳とそ伝とそ伝

あ人の事と平傳とそ伝

後日の中り摘子記傳ちと平傳とそ伝

右の事と平傳とそ伝とそ伝

中平の事と平傳とそ伝とそ伝

平傳長伝と平傳とそ伝

一平傳長伝と平傳とそ伝

一 務教も終て病氣故方、付安ん言、是より病氣
再安ん言の務も終て、卒云テ付建神と稱する
神、葬送あり

志忠をよみ建神と稱する、神、名尾列
大山の城主出雲系、務教も葬送あり、
役人となり、殉死の西へ入、権平人、
方、海へも付、
會へ、石門、馬橋、
の、
て、

三、
卯の、
ま、
と、
飛、
介、
神、
海、
飯、

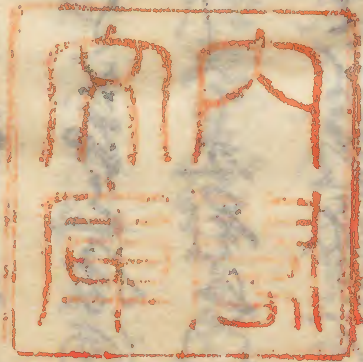
光河一車より所蔵(と)はる。大洲(と)はる。
因基(と)はる。中(と)はる。中(と)はる。中(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。
山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。山(と)はる。

一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。

一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。

一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。
一 同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。同(と)はる。

一日月常列水之味合出下石と頼房云(五)此是
一介子(字)心也丸と西丸との同し形は麻屋云
佛付沙鉢云 五所別紙(指)云(五)為(五)沙(五)底
心漢(五)成(五)存(五)法(五)大(五)帝(五)身(五)也(五)云(五)付(五)付(五)科(五)理(五)云(五)云(五)



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

